

遠隔授業下におけるジグソー学習法を用いた

老年看護学看護過程演習の実践報告

Practical report about a nursing process exercise in Gerontological

Nursing using the Jigsaw Method for distance learning

田中裕子¹⁾

Yuko TANAKA

小島有沙¹⁾

Arisa KOJIMA

高橋順子¹⁾

Yoriko TAKAHASHI

小澤芳子¹⁾

Yoshiko OZAWA

要旨

看護師は患者や家族のニーズを把握し、看護の知識や技術の提供、適切な態度をとるうえで多くの能力を必要とする。ジグソー学習法は、看護師に必要な能力を身につけるための学習方法と考えられる。COVID-19 の感染拡大により対面授業を変更し、遠隔授業下でジグソー学習法を用いた老年看護学看護過程演習を実践した。

本研究の目的は、遠隔授業下におけるジグソー学習法を用いた授業のあり方への示唆を得ることである。調査方法は、ジグソー学習法を用いた経験がある看護大学の教員へのインタビュー調査と本学卒業生を対象に実施したプレ授業を参考にジグソー学習法を用いた遠隔授業を行い、実践を振り返った。その結果、遠隔授業下において、オンラインシステムを使用することにより小グループの話し合いは可能であったが、学生が立案した看護計画を実践することはできなかった。遠隔においても看護実践が行えるような授業を構築する必要性が示唆された。

1) 天使大学 看護栄養学部 看護学科

(2022年4月28日受稿、2022年8月2日審査終了受理)

The nurse has to have many abilities to know the needs of his or her patients and family, which contributes, to an increase in nursing knowledge, skills, and professional attitude. We believe that the Jigsaw Method is a learning method that can help nursing students to acquire abilities to be better nurses. To help our students acquire understanding of nursing process in Gerontological Nursing we used the Jigsaw Method. Initially, we designed the exercise for face-to-face classes, but had to change to distant learning because of the Covid-19 pandemic.

Therefore, this report concerns the practical application of using the Jigsaw Method for learning the nursing process in Gerontological Nursing through distance learning.

The purpose of this study is to suggest using the Jigsaw Method for distance learning. This research examines the Jigsaw Method by an interview survey to nursing faculty members who had used the Jigsaw Method and practice sessions with new graduate nurses.

We found that the nursing students can do group work using the Jigsaw Method with online systems. The students discussed a subject of nursing process concerning Gerontological Nursing by dividing into small groups. Unfortunately, the change to distance learning prevented the students doing practice according to the nursing plan. A future issue is to have a grasp of the situation of learning nursing practice by distance learning methods.

キーワード：老年看護学 (Gerontological Nursing)

看護過程演習 (nursing process exercise)

ジグソー学習法 (Jigsaw Method)

遠隔授業 (distance learning)

看護学生 (nursing students)

I. はじめに

厚生労働省による看護基礎教育検討会報告書において看護職は「多様な場において、多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待されており、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められている」¹⁾と述べられている。

対象者のニーズを把握し、より質の高い看護を提供していくためには、適切な知識、技術、態度により対象者やその家族、多職種などとコミュニケーションを図り、連携・協働していく力や生涯にわたり自ら学びつづけていくなど看護職に求められる能力は多岐にわたっている。

これらの能力を養うためには主体的、能動的に学び他者とコミュニケーションを図り、協同していくという姿勢を看護学生の時から育成する教育が必要である。その教育の技法の一つとして、協同学習がある。協同学習とは「二人もしくは三人以上の学生が一緒に活動し、公平に活動を分担し、すべての参加者が意図した学習成果に向かって進むこと」²⁾であり、仲間と学び合い、意見交換することで、個人の理解が仲間の視点から吟味され、理解の幅が広がる³⁾とされている。

1970年代に社会学者アロンソンにより考案された協同学習の1つにジグソー学習法がある。ジグソー学習法は「学生が同じクラスの中で複数の話題を同時に学んだり、教えたりすることで、学習をさらに広げ、深め、そして視野を広げる効率的な活動」⁴⁾といわれている。

ジグソー学習法を取り入れることにより協調性、責任感、学習理解の深まりなどの学習効果について先行文献^{5)~9)}に述べられている。また、「知識の定着率と互恵的關係性を基盤とした人間力とチームワークを促進する可能性」¹⁰⁾が示唆されている。このような学習効果から得られる能力は、チームワークが重要となる看護職にとって必要である。

本学における老年看護学看護過程演習は看護師に必要とされる能力を高めるために、グループワークを取り入れた授業を行っているが、学生個々の学習効果が把握しづらい状況がみられた。また、20歳代の学生にとっては、老年期は体験したことがない未知のライフステージであり、高齢者と接する機会が少ないこともあり、高齢者の生活をイメージしづらく、高齢者に対する知識などを得ることが困難であることが多い。

そこで、老年看護学のグループワークにおいて、看護師に必要とされる能力を育成する学習効果が期待されるジグソー学習法を用いた授業の構築を行った。

ジグソー学習法を授業に用いるにあたり、ジグソー学習法を用いた経験のある看護大学の教員にインタビュー調査を実施した。また、ジグソー学習法を用いたプレ授業を実施し、その結果をもとに授業の構築を行った。当初、対面授業の予定であったが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による感染症の拡大から遠隔授業を余儀なくされることとなった。当初の授業予定も含め、遠隔授業下におけるジグソー学習法を用いた老年看護学看護過程演習の実践について報告する。

II. 研究目的

本研究は、2021年度老年看護学看護過程演習における授業の構築と実践から遠隔授業下におけるジグソー学習法を用いた授業実践のあり方への示唆を得ることを目的とした。

III. 用語の定義

1. **ジグソー学習法**：「ジグソーパズルのように1つの課題を複数の小課題に分解し、学生同士の学び合いによって再統合する」¹¹⁾という技法である。

2. ジグソーⅡ学習法：ジグソー学習法の進め方を一部修正し、グループのメンバーがすべての専門課題について資料などを読み込んである程度理解したうえで、グループ活動を行い、個人だけでなくグループ全体の学習成果も評価するという技法である¹²⁾。

IV. 研究方法

1. 研究対象者

インタビュー調査は授業でジグソー学習法を導入した経験があり、調査の許可が得られた看護大学の教員3人とした。また、プレ授業対象者は老年看護学看護過程演習を受講した本学卒業生でプレ授業の参加への許可が得られた6人とした。

2. 調査方法

1) インタビュー調査：対象者にジグソー学習法を用いた授業に関する半構成的インタビュー調査を実施した。インタビュー調査から得られた内容を授業構築の参考とした。

2) プレ授業：プレ授業の参加者にジグソー学習法の実施前後でアンケート調査を行い、得られた意見を授業構築の参考とした。

3. 調査期間：インタビュー調査は2021年1～2月、プレ授業は2021年4月に実施した。

4. 倫理的配慮

本学の倫理審査委員会より承認（インタビュー調査：研究承認番号2020-27、プレ授業：研究承認番号：2021-03）を得て実施した。

対象者には、研究協力の任意性、協力撤回の自由、費用の負担はないこと、研究へ協力することによる利益と不利益、成果の公表と個人情報の保護、研究責任者の氏名、職名及び連絡先、共同研究者氏名、同意書、データの保管と処理、謝金に

ついて口頭および文書で説明し、対象者の研究への同意を得たうえで実施した。

V. 研究結果

1. ジグソー学習法を用いた授業経験がある看護大学の教員へのインタビュー調査結果

1) 授業計画の立案や授業資料の作成、実施環境や使用物品の準備

教員もジグソー学習法について事前に学習したうえで授業計画の立案や授業資料を作成すること、机や椅子は可動式のものとし、対話がしやすい教室を確保することや使用物品の準備など、学生の学習環境を整えることがあげられていた。

2) ジグソー学習法を用いる意義

学生が納得して学習をすすめられるようにジグソー学習法の意義として、人に教えることは、知識の定着率が高まること、与えられた役割をしっかりと担うことはチーム医療を行うときにも必要であること、互恵的関係性や自ら学ぶ力をつけることで人間力や生きぬく力をつけることにつながることをジグソー学習法の実施前に学生へ説明していた。

3) 実施方法についての説明

学生にはいつまでにどのような責任を果たすのかという学習に関するスケジュール、事前課題の提示、グループ分け、実施方法、学生の役割、評価方法（事前学習も評価に含む）について紙面や口頭で説明し、学生が自ら確認できるようにしていた。また、不明点などは学生自ら発信するように伝え、学生が主体的に学ぶための姿勢をつくる工夫がされていた。

4) 学生間の接し方

実施にあたっては、学生同士で否定的な態度や言葉をかけないようにし、グループのメンバーと

して声を掛け合い、共感的にかかわるように伝えていた。

5) 実施中の教員の学生への関り

時間管理については、パワーポイントに時計を示し、時間を意識して学生が取り組む、学生が自発的に質問するなどの機会を奪わないようにする、学生の学習状況を確認するなど教員間における関わり方の統一を図りながら、学生が主体的に取り組めるようにしていた。

6) 学習したことの確認とフィードバック

知識は小テストを用い、学生が学んだことをリフレクションペーパーで確認するなど学生の理解度の確認や学びについて把握すること、看護過程の展開については学生の発表後に教員はどのように看護過程を展開したのかについて説明し、学習のフィードバックを実施していた。

7) 学習の効果

ジグソー学習法を取り入れることにより、学習時間の延長、知識の定着や授業を休む学生が減ったこと、グループのメンバーが課題を理解しやすいように学生は心と頭をよく使っているということなどの学習効果がみられ、学生自身が学習の方法を理解し、主体的に学習することができるという意見が聞かれた。

8) 遠隔授業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、遠隔授業で実施した時に通信環境の不安定さがみられたことや学生をグループごとにブレイクアウトルームで分けるのが大変だったため、授業を2コマ続きにするといった工夫がされていた。

2. ジグソー学習法を用いた授業のプレ授業

1) 看護大学の教員へのインタビュー調査結果を踏まえたプレ授業の構築

(1) **実施前**：看護大学の教員へのインタビュー調査を基にプレ授業の対象者には事前に、ジグソー学習法の実施の目的や方法を説明し、2021年度老年看護学看護過程演習の事例を配布した。対象者6人から調査協力が得られたため、3人ずつのグループに分かれ、栄養・代謝、排泄、活動・休息のいずれかの専門課題の担当者を決め、事例の対象者の専門課題に関するアセスメント、全体像、専門課題の資料の作成を個人課題とし実施してもらった。プレ授業の実施前には教室の確保などの準備を行った。また、今までのグループワークに関するアンケート調査を実施した。

(2) **実施中**：対象者6人に集まってもらい、エキスパートグループ活動とジグソーグループ活動を実施した。主課題は、全体像と優先順位が高い看護計画の作成とした。その際、教員は参加者の様子を見守り、対象者が主体的に学習をすすめられるように関わった。

(3) **実施後**：対象者が主課題を発表した後に、教員から講評を行った。プレ授業の実施後にも対象者にアンケート調査を実施した。

(4) アンケート調査結果

アンケート調査の結果、今までのグループワークについては、「自分にはなかった考えなどを知ることができ、視野が広がることが多いが、グループ全員が同程度のアセスメントを実施していない場合、一部の人が一生懸命進めることになり差がみられた。」という意見などがあげられた。

ジグソー学習法の実施後に行ったアンケート調査では、「自分の担当領域について責任をもって調べ、聞かれたら答えようと思う。」「自分の担当したパターンの理解が深まり、疑問点などについて

て意見交換することができた。」「対象者の全体像把握につながった。」などの意見がみられた。その一方で「ある程度の知識があったうえでの共有がないと、あまり説明されても分からないのではないかと思った。」という意見が述べられていた。

3. 老年看護学看護過程演習の授業実践

1) 老年看護学看護過程演習の概要

老年看護学は専門科目として、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学Ⅲで構成されている。看護学科2年生を対象に、老年看護学Ⅰは老年看護学概論について、老年看護学Ⅱは疾患をもつ高齢者の看護について学習する。看護学科3年生を対象に老年看護学Ⅲは老年看護学の実践に向けた看護過程演習と看護技術演習で構成されている。看護過程演習は対象者理解や根拠をもった看護実践のために必要であり、老年看護学臨地実習に向けて重要な演習として位置づけられている。2021年度老年看護学Ⅲは2単位 30 時間、23 コマであり、そのうち講義5コマと看護過程演習14コマ、看護技術に関する演習4コマで構成した。

2) 老年看護学看護過程演習の目的

老年看護学における看護過程演習の目的として、以下のように設定した。

事例を基に加齢に伴う心身の生理学的変化や特有の疾病をふまえ、様々な健康状況下にある高齢者への基本的な看護展開について主体的に学習することを旨とする。また、高齢者とその家族に対する基本的支援や看護実践のための知識・技術・態度を習得する。

3) 老年看護学看護過程演習の目標

老年看護学における看護過程演習の目的をもとに、以下の7点を設定した。

- (1) ゴードンの11の機能的健康パターン分類に基づき、事例の情報を収集できる。
- (2) 得られた情報について、スケールなどの客

観的な指標を用いて多角的な視点からアセスメントできる。

- (3) 収集した情報を統合し、対象者の全体像、看護の焦点の抽出ができる。
- (4) 対象者の個別性に配慮した看護計画を立案することができる。
- (5) 立案した看護計画を基に、対象者の安全、安楽に配慮した看護を実践できる。
- (6) 実践した看護計画の評価、修正ができる。
- (7) 積極的に学ぶ姿勢やグループメンバーと協同しながら、学習する態度を身に着ける。

4) 授業方法

(1) プレ授業をふまえた授業の構築

プレ授業において、ジグソー学習は「ある程度の知識があったうえでの共有がないと、あまり説明されても分からないのではないか。」という意見がきかれた。そこで、事例のアセスメントはジグソーⅡ学習法を用い、ジグソー学習法の実施前に個人課題としてゴードンの11の機能的健康パターンすべてのアセスメントを行うこととした。

5) 看護過程演習の事例の対象者の設定

紙面事例とし、事例の対象者は80歳代女性とした。対象者は、30歳代で夫を亡くし、農作業の仕事をししながら、子供3人を1人で育てた。近所づきあいやボランティア活動にも勤しみ、キリスト教の信仰を支えに人の役に立つことを生きがいとしていた。入院前はホームヘルパーの支援やデイサービスに通いながら、子供に迷惑はかけたくないと独居で生活していた。既往歴として脳梗塞、高血圧症、認知症、半身不全麻痺があり、今回は肺炎で入院となったが、自宅退院を希望しているという患者の設定とした。

対象者の疾患や障害、加齢による生活への影響だけでなく、生活史や価値観、信念、家族などへの支援に関する視点や記載されていない情報にも気づき、学生から質問があるように不足情報につ

いても設定した。

6) 看護過程演習のアセスメントツールと記載用紙

事例のアセスメントツールは老年看護学臨地実習においても使用するゴードンの11の機能的健康パターン分類を用いた。情報収集、アセスメント、全体像、看護計画、行動計画の記録用紙についても実際に老年看護学臨地実習において使用するものと同様の様式とした。

4. ジグソー学習法を用いた看護過程演習の実施

1) 学生に対するジグソー学習法についての説明

看護過程演習の開始前に、ジグソー学習法とは何か、なぜ実施するのかについてと実施上の注意点について学生へ説明を行った。ジグソー学習法の特徴として、学習者同士の対話を通して学習すること、ほかの学生に対して説明する活動を組み込むこと、学生自身が知識を構成することを重視すること¹³⁾があげられることを伝えた。なぜジグソー学習法を導入するのかということについては、

自ら学ぶという姿勢が身につく、人に教えることにより知識の定着や理解が深まる、各学生が役割を担うことにより責任感が育つ、グループメンバーと協力し合うことでコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、思考力、判断力などを学ぶ機会となるなど臨床において必要な力を身に着けるために実施するという点について学生に説明を行った。

ジグソー学習法の実施方法を図1に示す。学生にも図を用いて説明した。最初に4人から6人程度のメンバーがいるグループを編成し、そのグループのメンバーが専門課題といわれるいくつかの課題を担当する者(エキスパート)を決定する。本研究における専門課題は①栄養・代謝、②排泄、③活動・休息、④コミュニケーションの4つとした。

次に同じ専門課題をもつメンバー(エキスパートグループ)が集まり担当の課題について学び合い、その後、各専門課題を担当したメンバーがもとのグループにもどり主課題といわれる課題を協力して達成するように学び合うことを説明した。

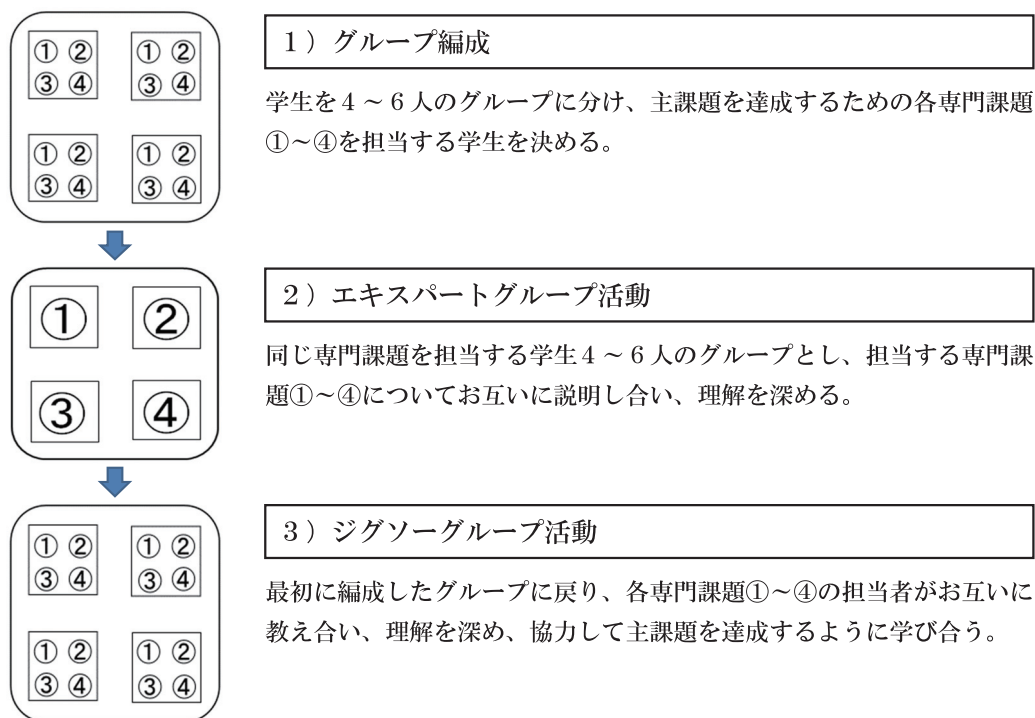


図1 ジグソー学習法について

本研究における主課題は老年看護学Ⅲ看護過程演習の事例における対象者の全体像、看護計画、行動計画を立案、実施することとした。

学生にはジグソー学習法は、基本的に最初に編成したグループに集合し、エキスパートグループ活動、ジグソーグループ活動、振り返りという流れですすめることやエキスパートグループ、専門課題、主課題といった用語について説明を行った。

また、ジグソー学習法の実施の注意点としては、お互いの良いところを見つけてフィードバックすること、タイムスケジュールにそって行動することとした。責任をもって役割を担当することを意

識するために、欠席する場合は、事前に教員とグループメンバーに必ず連絡することとした。また、欠席者がいた場合は、6人以内のグループで構成されるように他のグループに依頼して参加するなどグループメンバーで考えて対応することとし、学生が判断に迷う時は教員が介入するように関りを統一した。また、新型コロナウイルス感染症の予防対策を行って演習に臨むことや学生同士の口腔ケア、食事介助は除くが、口腔ケアモデル人形を用いてのケアやポジショニングは実施可能であることを伝えた。

表1 対面時に予定していた老年看護学Ⅲ授業スケジュール

回	授業内容
1	【授業】看護過程演習の概要：事例紹介、課題提示、ジグソー学習法を用いての演習方法の説明、質問の受付
2	【個人課題1作成】健康知覚・健康管理、栄養代謝パターンのアセスメント
3	【授業】老年看護学における看護過程の特徴、個人提出課題1提出
4	【個人課題2作成】活動・運動、睡眠・休息、役割・関係、性・生殖パターンのアセスメント、確認テスト
5	【授業】高齢者の排泄障害と看護、高齢者の排泄障害に関する倫理的配慮、個人課題2提出
6	【個人課題3作成】排泄パターン、コーピング・ストレス、自己知覚・自己概念パターンのアセスメント、
7	【授業】認知症高齢者の臨床像、薬物療法の実際と看護、個人課題3提出
8	【個人課題4作成】認知・知覚、価値・信念パターンのアセスメント、全体像の作成、確認テスト
9	個人課題4提出、専門課題の担当者決定、専門課題の資料作成、確認テスト
10・11	【グループ課題1作成】エキスパートグループ活動後にジグソーグループ活動（全体像、看護の焦点の作成）を実施、質問の受付、授業の振り返り
12・13	【グループ課題1作成】エキスパートグループ活動後にジグソーグループ活動（全体像、看護の焦点、看護計画、行動計画を作成、提出）を実施、質問の受付、授業の振り返り、次回の確認、修正後の専門課題資料を提出
14・15	優先順位が1位の看護計画と行動計画に基づき実習室にて看護実践
16・17	【グループ課題2】看護計画を評価・修正し提出、発表会の資料作成
18	【発表会】全グループ発表、教員からの講評
19～22	【看護技術演習】排泄ケア・移動・口腔ケア
23	【看護過程演習の総括】教員が考える老年看護過程の展開例を提示

2) 看護過程演習の進め方

ジグソー学習を実施する前に看護過程の事例について学生はアセスメント、全体像の作成、専門課題の資料を作成し、グループで全体像、看護計画、行動計画を作成するように説明した。また、アセスメント時は、ゴードンの 11 の機能的健康パターン分類を参考にしたアセスメントガイド¹⁴⁾をもとに情報収集、アセスメントし、不足情報については学生からの要望があれば提示することを伝えた。

他領域の課題が重なる時期であることを考慮して、看護過程演習の時間内に学生が個人課題を作成する時間を設けた。情報収集、アセスメントの時間は 4 コマ設定した。

看護過程演習の事例患者に関する疾患やアセスメントに関する内容などの確認テストを 4 回実施し、看護過程演習の個人課題における知識の確認を行うように計画した。

エキスパートグループ活動では、各専門課題の担当者は学生同士で話し合い決定することとし、ジグソー学習法の仕組みの 1 つである学生 1 人 1 人がエキスパートとして専門課題の役割を担いグループメンバーに学習してきたことを説明する場を設定した。学生が作成した専門課題に関する内容の妥当性については、オンライン学習システム（以下 Google クラスルーム）への課題の提出時に各担当教員が確認することとした。

3) 対面時の授業スケジュール

対面時に予定していた老年看護学Ⅲ授業スケジュールを表 1 に示す。

老年看護学臨地実習に向けての準備として、また新型コロナウイルス感染症拡大により、臨地実習の中止や制限される事態が想定されたため、臨地実習に近い形になるように授業を計画した。

5. 遠隔授業の実施

1) 遠隔授業に修正した授業スケジュール

老年看護学Ⅲ遠隔授業スケジュールを表 2 に示す。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により遠隔授業となったが、今後も老年看護学臨地実習が中止になることを想定し、授業スケジュールを修正した。遠隔授業に伴い、全体像などの作成については Web 上で共同作業が可能なプレゼンテーションソフト（以下 Google スライド）を使用することとし、ジグソー学習法を実施する前に学生に説明を行った。また、当初、対面で予定していた看護計画の実践については学内への入校が禁止となったため中止とした。

2) 遠隔授業における看護過程演習方法

遠隔であってもグループワークが実施できるように遠隔会議システム（以下 Zoom）のブレイクアウトルーム機能を使用し、小グループに分けてグループワークを行った。全体像の作成にあたっては Google スライドを学生が使用できるようにエキスパートグループ活動の実施前に教員が説明した。グループワーク時は教員 3 人が各 8 グループの学生 32～33 人を担当し、学生から質問があった時などに随時、対応できるような体制とした。個人課題は、Google クラスルームに期日までに提出とし、課題を提出してからジグソー学習法の授業に臨むことを前提とした。

ジグソー学習は 1 グループ 4 人～5 人で行い、グループワークの都度、司会者を決め、活発に実施すること、エキスパートグループ活動やジグソーグループ活動後の課題の追加や修正事項などは色を変えて記載し提出すること、看護計画、行動計画を基に実施する演習は入校ができなくなったため中止し、看護計画の実施についての評価は含まないこととした。

質問については、授業の都度、受け付け時間を設け、学生に一斉に返答することとした。グルー

表2 老年看護学Ⅲ遠隔授業スケジュール

回	授業内容
1～8	対面時に予定していた老年看護学Ⅲ授業スケジュールを実施
9	【授業】遠隔授業時の看護過程演習の進め方について説明（授業スケジュール、Google スライドを使ったジグソー学習法の方法） 説明後に各グループで Google スライドの使用方法を練習 ジグソーグループのリーダーと専門課題の担当者を決定し Google クラスルームへ提出、確認テスト
10・11	各自、専門課題の資料を作成し、授業終了時に Google クラスルームへ提出 作成した専門課題の資料をもとに Zoom でエキスパートグループ活動を行い、 専門課題の資料を修正、質問受付、授業の振り返り
12・13	修正した専門課題の資料を授業開始までに Google クラスルームへ提出 【グループ課題1】修正した専門課題の資料をもとに、Zoom でジグソーグループ活動を行い、全体像、看護の焦点について話し合い、Google スライドを使用して作成、授業終了時までに課題を提出、質問の受付、授業の振り返り
14・15	【グループ課題2】看護計画（優先順位が高い看護の焦点を1つ、その根拠も含めて立案）と行動計画（看護計画に基づき立案）を作成、授業終了時までに Google クラスルームへ課題を提出、質問の受付、授業の振り返り
16・17	【グループ課題3】発表会資料（全体像、看護の焦点、看護計画、行動計画）をパワーポイントで作成し、発表の準備を行う 発表会資料は授業終了時までに Google クラスルームへ提出、発表順番の決定、質問の受付、授業の振り返り
18	【発表会】Zoom で実施、教員からの講評 次回の確認、発表会を通しての学びについて Google フォームにて提出
19～22	【看護技術に関する授業】排泄ケア・移動・口腔ケア
23	【看護過程演習の総括】Zoom で実施 教員が考える老年看護過程演習の看護過程の展開の例を提示

ブ課題は授業終了後に提出するようにし、提出物の確認を行うことにより、学生の学習の進捗状況の確認や修正が必要であるときに教員からタイムリーに伝えるようにした。ただし、学生が自ら質問や疑問点を発言することができるように教員から学生への声掛けは極力、控えるように教員間で関りを統一した。

3) エキスパートグループ活動

専門課題の作成は個人課題とし、資料を作成するための時間を1コマ設定した。その後、エキスパートグループ活動を行う時間を1コマとした。専門課題の資料としては、事例A氏における対象

者の情報収集からどのようなアセスメントが導きだされたかについて根拠をもって説明することとし、対面時と同様の専門課題とした。5人グループの場合は、栄養・代謝を2人ずつ担当することにした。エキスパートグループ活動では各自、各専門課題のグループごとに集合し、作成した専門課題の資料を持参し、お互いに説明し合い、資料の追加や修正を実施した。資料の追加や修正は色を変えて、再度、教員に提出することとした。

4) ジグソーグループ活動

ジグソーグループ活動は6コマ実施した。主課題は事例A氏の全体像と看護の焦点を明確にし、

優先順位が1位の看護計画と実施にあたっての行動計画を立案するとした。エキスパートグループ活動時に修正した専門課題をもとに、事例の全体像、看護計画、行動計画の作成をジグソーグループ活動で実施した。実施後、Google クラウドに提出された課題を教員が確認することにより、学生の学習の進捗状況の確認をするとともに修正などのアドバイスもタイムリーに伝えた。

5) 看護過程演習の発表会

学びを共有する場として看護過程演習の発表会を実施した。実施方法として、発表会は1コマとし、担当教員のグループごとに Zoom で行い、全グループが発表できるようにした。作成した発表資料は発表前の提出課題とし、発表資料は Zoom で画面共有した。

発表内容は事例の対象者の全体像から優先順位1位の看護の焦点を導き出し、対象者の個別性に合わせた看護計画や行動計画を発表し、優先順位1位とした理由や対象者の個別性をどのように考えて看護計画や行動計画に組み入れたのかについても含めて発表することとした。発表資料はパワーポイントとし、発表時間7分、質疑応答3分とし、発表順番はくじ引きで決めた。司会、タイムキーパーはグループごとに1名ずつ決め、次に発表するグループが担当し、最後のグループは最初のグループが担当し、順番に担当した。質問がないときは司会担当グループが質問することとした。実施にあたっての注意事項として、発表者以外はミュートとし、質問時にミュートを解除すること、画面の表面をスピーカービューにすること、タイムキーパーが時間にベルで合図し、時間の厳守や積極的に参加することとした。

発表会後は「老年看護学における看護過程演習を通しての学び」として、フォーム作成ツール (Google フォーム) を使用して提出することとした。

6) 学生へのフィードバック

看護過程演習のまとめとして、全グループの発表が終了した後に学生全員に三人の教員がアセスメント、全体像、看護計画について一例として説明を行い、発表会の講評を行った。学生の提出物については、コメントをつけ返却した。

7) 評価

評価として看護過程演習の個人課題が50点、グループ課題が20点、確認テストを20点とし、合計90点とした。看護過程演習の欠席は1回につき2点、遅刻・早退は1回につき1点の減点とし、また、不正発覚時単位認定はできないため厳に注意するように伝えた。また、提出物の遅れはやむを得ない事情のみ考慮し、その他はすべて減点対象とした。

VI. 考 察

遠隔授業下におけるジグソー学習法を用いた授業の実践への示唆

老年看護学看護過程演習において、遠隔授業下でジグソー学習法を用いた授業を実施した。その結果、遠隔授業における ICT (Information and Communication Technology) の様々なツールを活用することにより、遠隔授業によるエキスパートグループ活動やジグソーグループ活動が実施でき、タイムリーなグループワークを実施することは可能であることが示された。

亀井ら¹⁵⁾は、オンライン演習により、学生全員が自宅から受講できたことにより教育の保証につながった点について述べている。このように遠隔授業となった場合であっても、授業を中断することなく、グループ学習ができるということは対面授業のように、学生同士がお互いに協力し合いながら学び合い、学習を深める機会になると考えられた。

また、今回の遠隔授業において、ブレイクアウ

トルームで学生が各グループに分かれてグループワークを実施したが、教員もグループワークに入ることができたため、学生の参加している様子や発言の内容が把握しやすかった。このことから、タイムリーな指導につながると思われた。

そして、対面授業時においてはジグソー学習法を実施する場合は、グループワークをしやすいような広さがあり、可動式の椅子と机が確保できる教室や使用物品などが必要となるが、遠隔授業下ではパソコン上の実施となるため、実施場所や使用物品の準備が不要となる。今後もグループワークを実施する上で実施場所や使用物品が限られている場合、遠隔授業で実施することも選択肢のひとつとなることが考えられた。

しかし、遠隔授業において、対面授業時に予定されていた学生が立案した看護計画を実施することができなかった。老年看護学看護過程演習は実習前の演習として位置づけられており、看護実践を組み入れていく工夫が必要である。

亀井ら¹⁶⁾によると、学生の自宅にある物品を使用しながら演習を実施したことが報告されている。このように工夫をしながら、演習を行えるような授業を展開していた。老年看護学臨地実習に向け、看護技術を実践する機会が設定されるように遠隔授業下においても看護計画を実施できるよう授業の構築を工夫していくことが今後、必要であることが示唆された。

VII. 本研究の限界と課題

本研究は本学における 2021 年度老年看護学看護過程演習の遠隔授業下についての実践のみであり、一般化することはできない。今後は、遠隔授業下におけるジグソー学習法を用いた授業の実践を積み重ねるとともに、看護技術の実施ができるような工夫をしていくことや学習効果についても明らかにしていくことが必要であると考えられる。

VIII. おわりに

遠隔授業下におけるジグソー学習法を用いた授業の実践において、どのような状況下においても、教育の質を確保し、看護職に必要なとされる能力を育成していくために、今後も遠隔授業下におけるジグソー学習法を用いた授業実践を積み重ね、教育方法を模索していく必要がある。

謝 辞

本研究の実施にあたりご協力くださった皆様に深く感謝申し上げます。

利益相反

利益相反に関する開示項目はありません。

文 献

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育検討会報告書，2019。<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_07297.html>（2022年4月21日現在）
- 2) エリザベス＝パークレイ他，安永悟（監訳）：協同学習の技法 大学教育の手引き，初版第1刷，4，ナカニシヤ出版，2009。
- 3) 安永悟：活動性を高める授業づくり 協同学習のすすめ，69，医学書院，2018。
- 4) 前掲2)，128。
- 5) 藤田優一他：ジグソー法を取り入れたアクティブラーニングに対する学生からの評価：小児看護学演習科目における看護過程展開の実践報告，日本看護科学会誌，Vol. 38，237-244，2018。
- 6) 田中静美他：ジグソー学習法による血圧測定教育効果-基礎看護学実習 I 終了時における従来の学習法との比較-，藍野学院紀要，第17巻，99-105，2003。

- 7) 緒方巧他：ジグソー学習法による基礎看護技術の習得を高める教育研究，藍野学院紀要，第16巻，53-62，2002.
- 8) 末次典恵：ジグソー学習法で展開した看護学生を対象としたBasic Life Support(BLS)教育の評価，南九州看護研究誌，Vol.17，No.1，1-7，2019.
- 9) 中村幸代，竹内翔子：母性看護学における知識構成型ジグソー法の学生評価，横浜看護学雑誌，Vol.13，No.1，6-12，2020.
- 10) 有田弥棋子：協同学習を通して老年看護援助論の3年間の授業実践報告：知識の定着率とチームワークに向けた互恵的役割の一考察，梅花女子大学看護保健学部紀要9号，1-14，2019.
- 11) 西野毅朗：ジグソー法で知識を構成する，アクティブラーニングの活用，小林忠資、鈴木玲子編集，看護教育実践シリーズ4，第1版第1刷，86，医学書院，2018.
- 12) 前掲11)，95.
- 13) 前掲11)，87.
- 14) 奥宮暁子：ゴードンの11の機能的健康パターン分類を参考にしたアセスメントガイド（老年領域），ウエルネスの視点にもとづく老年看護過程 生活機能に焦点をあてたアセスメント，奥宮暁子編著，第2版，98-100，医歯薬出版株式会社，2019.
- 15) 亀井智子他：2020年度前期オンライン学習期間における学部老年看護学関連科目の演習報告，聖路加国際大学紀要，Vol.7，195-200，2021.
- 16) 前掲15)，196.